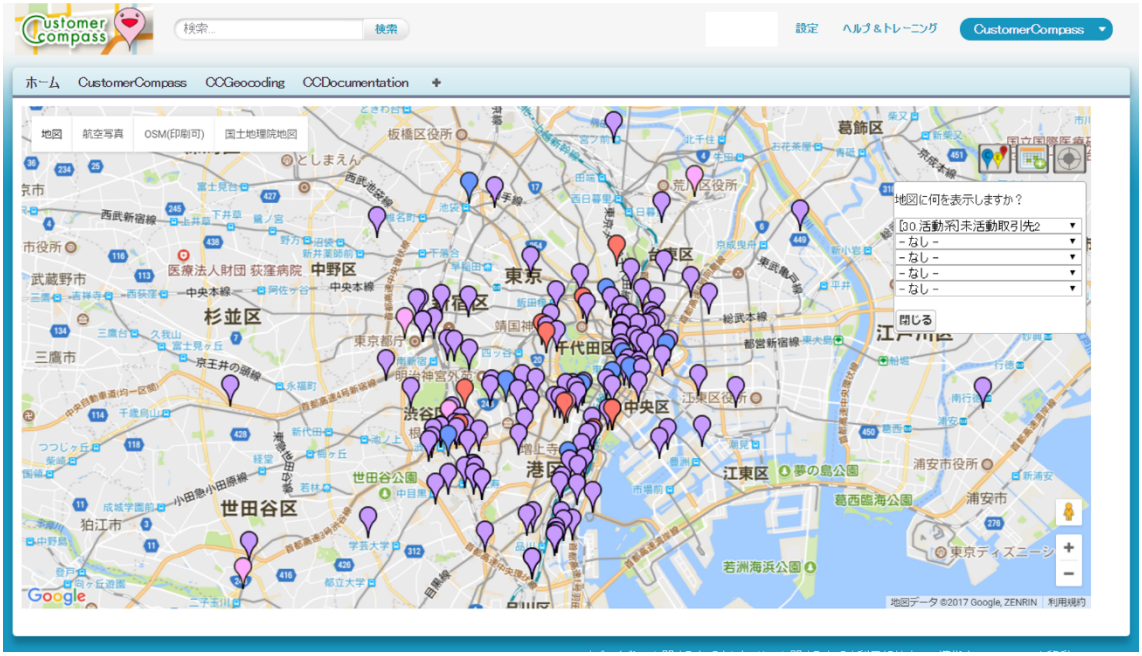
Customer compass®
そのリスト、今すぐ地図で一覧表示。
カスタマーコンパス

カスタマーコンパス　簡易マニュアル



samurai system サムライシステム

Index

第 0 章　概要
第 1 章　初期設定(管理者向け)
第 2 章　地図に表示をするための設定(ユーザー&管理者向け)
第 3 章　さらに表現力を高めるための設定

第0章　概要

カスタマーコンパスは、Salesforce プラットフォームで稼働する、シンプルかつ簡単に扱うことのできる地図システムです。

本書では、初期設定や地図上に表示させる簡易な手法や、知っておくとよい点をまとめております。詳細な設定については、カスタマーコンパスのマニュアルをご確認くださいませ。

第 1 章　初期設定(管理者向け)

Salesforce は、顧客情報管理を中心として CRM(カスタマーリレーショナルマネジメント)システムです。その為顧客情報として、取引先や取引先責任者、またはリードと言った見込み客や取引先を管理する仕組みが標準で設定されています。その中には、様々な情報がありますが、住所情報もあります。現状はそれらの詳細画面に行けば、小さな地図が表示されるようになっています。
とは言え、ある条件のもと(例えば 1 か月以上訪問していない先等)の複数企業を一枚の地図に表示することは出来ません。それが容易に表示できるのが、カスタマーコンパスの一番の特徴です。その容易に表示するためには、下記の設定がまず必要となります。

① 標準オブジェクトについて
取引先、取引先責任者、リードと言った標準オブジェクトに関しては、カスタマーコンパスをインストールすると位置情報項目の緯度(CClatitude)と経度(CClongitude)が自動的に設定されます。その為、特に設定は必要ありません。

② カスタムオブジェクトについて
カスタムオブジェクトに関しては、緯度、経度の項目がありませんので、個々に作成していただくことが必要です。住所データを参照したいカスタムオブジェクトに緯度(CClatitude)と経度(CClongitude)をカスタム項目として設定してください。
更に、参照する住所データの項目名を CCaddress としてください。既存にある項目名を変更できない場合や、そもそも住所データが分割(都道府県、市区町村、町丁名等)されている場合は、それらを数式で結合し、CCaddress に入れるように設定してください。

また、カスタマーコンパスでそのオブジェクトを参照しますという設定が必要となります。それが、カスタム設定の中の「CC_config」になります。これを編集していくと、下記のような設定画面が出てきます。

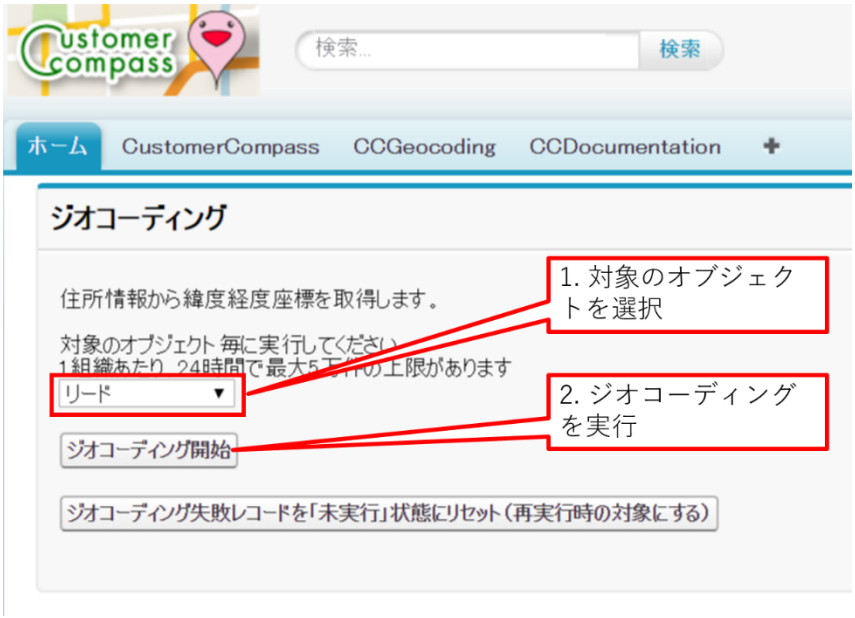


この中の CCTargetSObjects と言うのが、どのオブジェクトを参照するかと言うこととなります。初期値では、lead(リード),account(取引先),contact(取引先責任者)を参照するように設定されています。参照したいオブジェクト名をこの後、半角カンマに続けて、入力すると、カスタマーコンパスから参照できるようになります。

③ ジオコーディング

カスタマーコンパスは①、②での緯度、経度情報を基に、地図上の位置を確定し、ピンを打つような仕組みになります。①、②で参照欄が出来上がっただけですので、ここに緯度経度情報を入れることが必要となります。それぞれのオブジェクトには住所データがあり、それを緯度、経度の数値に変換することをジオコーディングと言います。

取引先、取引先責任者、リードは標準項目の住所データより、カスタムオブジェクトは設定していただいた CCaddres より、住所データを取得し、変換を行ないます。それが、次の画面です。この画面でどのオブジェクトの住所データをするのか設定します。尚、24 時間に 50000 件までは変換対象ですが、それ以上は日を変えて変換してください。



これで、住所データから地図に表示するための緯度経度情報がそれぞれのオブジェクトに設定された状態になります。管理者としての初期設定はここまでです。

第2章　地図に表示をするための設定(ユーザー&管理者向け)

第 1 章で、地図データを基に表示する準備が出来上がりました。では、その地図データの内、どれをどのようにして地図上に表示するかが、これからの設定となります。つまり、表示するものを絞り込むわけです。この絞り込むのは、レポート若しくは、ビューとなります。どちらでも、対応可能ですが、1 つのオブジェクトでしか絞り込みが出来ないビューより、複数の関連オブジェクトを利用し絞り込めるレポートがおススメです。尚、複雑な絞り込みに関しては、第 3 章で明記します。

では、表示したい住所データを絞り込むレポートを作成し、準備しましょう。勿論、今までに使用されているレポートでも結構です。それをカスタマーコンパスで表示するには、次の 2 点を修正するだけです。

① レポート名の末尾に、半角で（map）とつける

② レポートの項目を変更します。必ず左端に、ID を設定します。また、これらのレコードが緯度経度情報であります、CClatitude、CCLongitude を所持していることを確認します。尚、レポート内に含めなくても問題ありません。



設定はこれだけです。こうしますと、カスタマーコンパスの左メニューから今作成していただいたレポートが表示されるようになります。絞り込まれた地図データを基に、それらが地図上にピン打たれたことか確認できると思います。



更に、アイコンを色々なステータスで変更することが出来ます。例えば、色を変えたり、アイコンの中の文字を変えたり、アイコンの大きさ自体を変えたりすることが可能です。それらは、CCicon と言うデータを基に表示を変更することが可能です。

① バルーンアイコン

色の指定と、アイコンの中の文字を指定します。中の文字は指定しない(ブランク)でも可能です。

例) blue,A　　red,7　　orange,Z　　pink,

カンマの前が色であり、カンマの後ろが表記する文字です。色は 10 色、中の文字は半角英数字のみです(0～9、A～Z、及びブランク)。必ず、前の色とカンマは必要なりますので、ご注意を。

② サークルアイコン

色の指定と、アイコンの大きさの指定をします。中の文字は設定できません。

例) blue,circle,20　red,circle,80　　yellow,circle,50

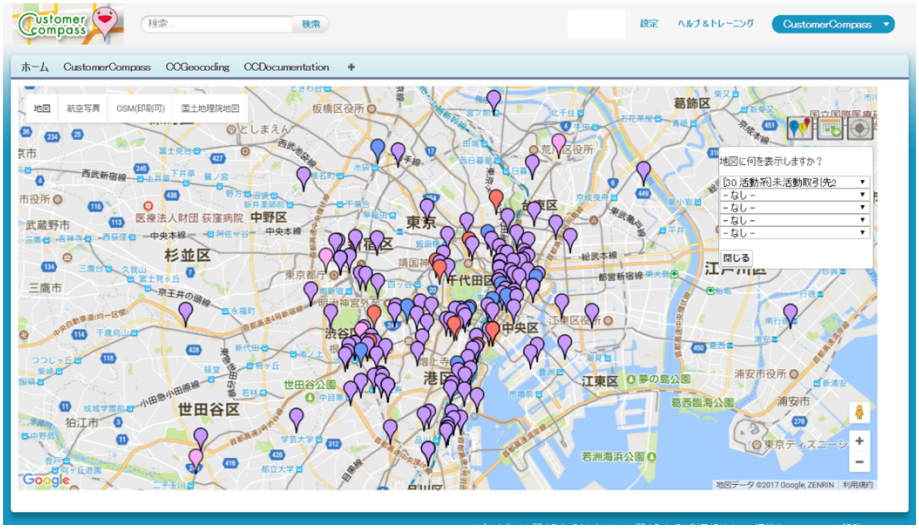
カンマの前が色であり、circle と言う文字を挟んで、カンマの後ろが円の大きさ(ピクセル)になります。

これらが設定できれば、レポートの条件で、様々なアイコンを利用し、取引先、取引先責任者、リード、そして住所データをもったカスタムオブジェクトが地図上に表現ができます。

第3章　さらに表現力を高めるための設定

前章にて、地図上に表示するアイコンに色や大きさを設定することが出来ることを説明しました。ただ、CCicon と言う項目にデータを入力していると、表示としては固定されてしまいます。この CCicon をテキスト形式ではなく数式にすれば、ある状態ごと、アイコンの色を変えたりすることが可能となります。

一例で、取引先の最終活動日(つまり関連する活動の最終日)から、何日たっているか、またそもそも活動していないかにより、アイコンの色を変える場合を示します。



活動が関連するオブジェクトには最終活動日(LastActivityDate)があります。これを利用し、まず前回の活動から何日経過しているかを未活動日数(UnactivatedDays)を計算させます。

つまり、

```
today() - LastActivityDate
```

として、計算させます。この未活動日数が 90 日以上ならば紫(purple)、30 日以上ならばピンク(pink)、それ以下ならば青(blue)、そもそも最終活動日がブランクならば赤(red)とするように、式を作成します。つまり、

```
IF( isblank( LastActivityDate ) ,"red,",
IF( UnactivatedDays__c >90,"purple,",
IF(UnactivatedDays__c >30,"pink,",
"blue,")))
```

と言った具合です。こうすると、活動がない期間がない取引先を赤く目立たせることが可能となります。